

# おおたでんき News

イマココ!

太田電機が携わっている工事をご紹介します!



(田代地区)

阿久根市内の防災行政無線のデジタル化工事を行っています。各地区の防災無線のスピーカーなどを設置し、災害などが発生した時に防災放送が正常に機能し、防災や避難の行動が安全に、スムーズに行えるよう工事をすすめています。昨年从去年3月までの2年間にわたる工事ですので、各地域の区長様や住民の皆様にご協力いただきながら、感謝しつつ今後も工事を行っています。



(上野地区)



(新港地区)



## エアコン屋さんの知恵袋

エアコンはドライ(除湿)機能を上手に使って!

梅雨に入って毎日ムシムシしますね。この蒸し暑さが「熱中症」を引き起こします。熱中症による救急搬送のニュースで必ず目にするのが

「エアコンがあるのにつけていなかった」というもの。節電のために「暑くても冷房はガマン」としてしまうことがあるようです。しかし日本の夏は湿度が高く、年々暑さは強烈になっていますので、エアコンなしでは命の危険があります。高齢者や乳幼児、病弱な方は特に要注意!

電気代はドライ(除湿)のほうが冷房より安くなります。

湿度が10%上がると体感温度は1℃上がります。雨の日は窓は開けず、エアコンをドライ(除湿)機能で使い扇風機等で風を送ると、快適に涼しく過ごせます。また、エアコンの吹き出し口のフィルター清掃や、エアコン本体の洗浄などでも効率がよくなり、節電になります。

エアコンの省エネ化が進み、現在のエアコンは昔と比べ電気代が格段に安くなります。10年前のエアコンを取り替えた場合、約19%の省エネ! 15年前のエアコンを取り替えた場合、約43%の省エネ! 例えば15年前のエアコンの場合、年間18,000円以上も電気代が節約できるというデータもあります!

「新しいエアコンで快適に節電」考える余地ありですね!

## 太田でんきの「この人」



電気部 宇都 翼

- ◆資格: 第二種電気工事士
- ◆趣味特技: 車いじり、ドライブ 映画鑑賞
- ◆最近嬉しかったこと

半年にわたった大規模工事が完了し、ほっとしています。お客様の引っ越しも終わり、無事に引き渡しができました。4年目ですが、どんどん成長できているようで嬉しいです。

昭和21年の創業以来、地域の方々の安全・快適な生活に貢献し、お客様の「笑顔」を生む『住宅設備の救急隊』として技術を磨き、信頼を積み重ね、皆様のライフラインを支えています。

# (株) 太田電機工業所

阿久根市港町65番地4 TEL:0996-73-2800  
出水市大野原町304番地 TEL:0996-63-1966



～高齢者や障がい者(児)のためのほっと笑顔工房～



ケア・リフォーム暖家だんけ

# ReLife り・らいふ通信

～暮らし・生活・住環境を見つめなおして～

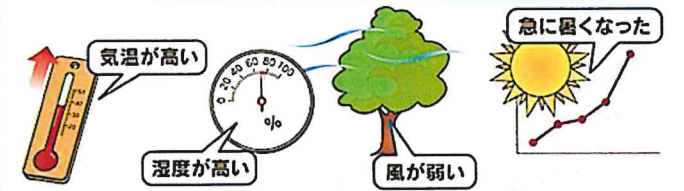
No. 55 \* 2020年6月

(株)太田電機工業所  
ケア・リフォーム事業部  
(☎0996-73-2073)  
鹿児島県指定  
福祉用具貸与・特定福祉用具販売事業所  
介護保険事業所番号4670600396

ご存じですか?

## 熱中症の応急処置

熱中症はこんな時が要注意!



チェック1 熱中症を疑う症状がありますか?

(めまい・失神・筋肉痛・筋肉の硬直・大量の発汗・頭痛・不快感・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・意識障害・けいれん・手足の運動障害・高体温)

もし、あなたの周りの人が熱中症になってしまったら、落ち着いて状況を確認しましょう。最初の処置が肝心です。

はい

チェック2 呼びかけに応えますか?

いいえ

救急車を呼ぶ

はい

涼しい場所へ避難し、服をゆるめ体を冷やす



救急車が到着するまでの間に応急処置を始めましょう。呼びかけへの反応が悪い場合には無理に水を飲ませてはいけません

チェック3 水分を自力で摂取できますか?

いいえ

涼しい場所へ避難し、服をゆるめ体を冷やす



大量に汗をかいている場合は、塩分の入ったスポーツドリンクや経口補水液、食塩水がよいでしょう

はい

水分・塩分を補給する

氷のう等があれば、首、腋の下、太腿のつけ根を集中的に冷やしましょう

チェック4 症状がよくなりましたか?

いいえ

医療機関へ

はい

そのまま安静にして十分に休息をとり、回復したら帰宅しましょう



本人が倒れたときの状況を知っている人が付き添って、発症時の状態を伝えましょう

水分補給は一時間に一度、エアコンは除湿機能を使うのがオススメ!

出典:環境省「熱中症環境保健マニュアル2018」p.24

## 介護保険住宅改修・福祉用具機器のレンタル・販売はおまかせください!





# 段差を越える



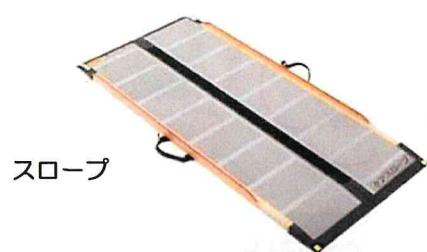
バリアフリー化で段差をなくすことを「**段差解消**」と言いますが、これは段差が消えるわけではなく、段差の不安・危険を解消する為の、福祉用具利用や住宅改修のことをさします。段差があっても楽に移動でき、生活に支障をきたさないようにすることが目的です。

## < 家の中や屋外への段差を越える >

廊下からトイレや居間への移動に、歩行器や車椅子を利用する場合段差があると越えるのがたいへんです。認知症などの症状が進行し足を擦って歩く方などは、段差はつまづきやすく転倒する危険があります。5cm位までの段差ならミニスロープがあると安心です。ミニスロープは住宅改修で取付けることも、介護保険レンタルをすることもできます。また、スロープは玄関や縁側から屋外への移動の際、役立ちます。車椅子で上がり框や敷居を超えるなどの移動がしやすく持ち運びができます。長さは100cm~285cmまでサイズもいろいろ。



ミニスロープ



スロープ

## < 介護保険住宅改修例 >



玄関などの上り框の段差解消には、手すりや踏み台があると自立歩行の方の昇降が安全に行なえます。壁や床に手すりを取り付ける工事や、介護保険レンタル商品で、ステップ付きの手すりを設置できます。住宅の事情に合わせ選べますが、ポイントはご本人が使い易いことです。

足腰の筋力低下を防ぐためには、少しずつ散歩やお出かけの機会も大切です。でも玄関からの出入りがスムーズにできないと出かけること自体がおっくうになりますね。外出の意欲向上や、地域との交流を続けるために、転倒を防ぐ福祉用具などを適所に利用し、元気な毎日を過ごしていただきたいですね。

## < 介護保険レンタル商品例 >



(はきだし窓 高さ50cmに対応)



(玄関 ご本人の動線を考え手すりは片側のみ利用)



(玄関 靴箱に手をついていたが危なくなりレンタル品利用)



## 認知症を隠すデメリットとは

「国際アルツハイマー病協会が世界的に行った調査で、認知症の人を介護している家族のうち、周囲に認知症の診断を隠したことがある人は35%だった。また、当事者の85%以上が「自分の意見が真剣に受け止められないことがある」と答えた。(中日新聞)」

このような記事を読むと、まだまだ認知症についての誤解や偏見があるのだと感じます。

認知症の人に何かを話してもよくわかっていないだろうから、と家族や介護者が勝手に話を進めてしまう。

認知症あるあるの話です。

でもこれは、デメリットがあります。

そのデメリットとは…  
**認知症の人の尊厳を無視・軽視していることによる関係性の変化**です。

多分、このような事態が起こる前提には極端に言うところ「認知症の人は何もわからない」このような前提があるかも知れません。

じゃないと本人の意見を無視もしくは軽視することはないでしょう。

でも、認知症の人は何もわからなくなってきているわけではなく、認知機能の低下により、理解や判断が難しくなっているだけです。

理解や判断が今まで通りにできなくなっているだけです。

もちろん、認知症の進行具合によりますが時間をかければできる場合もあります。

上手に選択肢を提示すれば選択することもできる場合があります。

それなのに、認知症というだけで「大抵のことがわからない」と判断され、意見を真剣に聞いてもらえない。

本人には意見があるのに、それを無視もしくは軽視される。

そうなるとうとうなるか。

**「話しても無駄」  
「自分は価値のない存在なんだ」  
「わかってくれない相手が悪い」**

このような感情を持つ可能性があります。

ちょっと思い出してほしいのですが、自分が小さい頃、自分の意見を言っても周りの大人が誰も話を聞いてくれなかったという事はなかったですか？

その時どんな気持ちでしたか？

悲しかったり、自己肯定感が下がったり、相手を批判したくありませんでしたか？

認知症の人と同じです。

**「自分の尊厳が無視・軽視されている」と感じると、その人との人間関係が悪化します。**

信頼関係も徐々に崩れていきます。

そうすると、自分と認知症の人のどちらも辛くなる介護

↓↓↓

**「どんより介護」**になってしまいます。

その結果、BPSD(周辺症状)や認知症が急激に進むなど、状況は悪化していきます。

ですから認知症だからといって相手の意見を無視・軽視するのではなく聞く姿勢を持ってみましょう。

認知症であっても、本人の尊厳を大切にしていることを伝えましょう。

**「ハッピー介護」**はそこからスタートしていきたいと思います。



**「どんより介護からハッピー介護へもっと楽になる考え方を伝えたい！」**  
林 炎子(もえこ)さん  
(日本高齢者アタッチメント協会 代表)

看護師で認知症介護歴32年の林炎子さんは、認知症介護に携わってきた経験や知識を一人でも多くの方に知ってほしいと、「目からうろこの認知症セミナー」を開催されています。

<http://ninchishoucare.jp/blog/>

「みんなの認知症介護をハッピーに」は、林炎子さん公式ブログ「家族で支える認知症ケア」より抜粋、参照しています。

認知症になっても大丈夫。

認知症があっても大丈夫。

